



友達と曲に合わせて動き、パンダを出すことに成功したA児



保育者からの言葉掛けで、バルーンをしている友達のところへ急いで走っていくA児



声援が聞こえ、ニコツとして園庭に目をやるA児



蔓を引っ張るA児と、一緒に引っ張る違う園の友達



同じ園のB児と一緒に大きな穴をのぞき込むA児



A児が発見した木の幹の穴



「見て、穴が開いてる」

CASE 44 4歳児

「東こども園、あー楽しかった！」

協力園 山香こども園

(これまでの経緯)

山香こども園は、山浦分園と東こども園の小規模園を姉妹園にもち、交流会『わくわく会』を行っています。

子ども達は、10月に3園合同の運動会(4歳・5歳児)を行い、大勢の友達と一緒に体を動かす気持ちよさを味わいました。また、東こども園の友達から、じゃんけん勝つと相手の花をもらっていく『じゃんけん列車』を教えてもらい、みんなで遊ぶ楽しさも味わいました。

11月15日は、山香こども園の4歳児にとっては、東こども園での初めての『わくわく会』です。保育者同士、どのような遊びが展開できるのか、環境構成・子どもの関わり方をどうするのか、各園の子ども達がどんな遊びをしたいかなど事前話し合っただけで計画しました。A児は、前日の話し合いで、「みんなで『バルーン』がしたい」と話していたようです。

『わくわく会』当日、A児は、山香こども園にはない太鼓橋のような遊具に乗って「わー、ここまで登れたよ。」と言います。しばらくすると、同じ園のB児が虫かごを持って、A児のところへやってきました。A児は遊具から降りると、B児と園庭の隅っこにしゃがみ込みました。A児は、葉っぱを好きな虫に見立てているのか、葉っぱを虫かごに入れ、「あー、いっぱいー」と、言って虫かごの蓋を閉めています。それから、穴の開いた葉っぱを見つけ、A児は「お面みたい。」と言うと、リレーの応援をしている保育者を探し、「見て、穴が開いてる。」とその葉っぱを見せています。

その後、A児は何かを探している様子で、こども園のフェンス沿いを歩いていきます。霜よけにビニールをかぶせている大きな葉っぱを見つけ、A児がじっと見ていると、東こども園の友達は、「ここ、バナナだよ。取っちゃだめだよ。」と、教えていました。

バナナの木の少し先に、幹に穴が開いている木がありました。A児が、穴の奥をのぞき込んでみると、東こども園の3歳児が「前に、蟻がいっぱいたよ。」と、話します。『蟻』と聞いたA児は、背伸びをしたり、膝を曲げたりして、角度を変えて穴の奥まで見ようとします。一緒にいたB児も、A児の真似をしてのぞいたり、穴の周りを触ったりしていました。いつの間にか、二人の周りに友達が集まってきて、みんなで穴をのぞき込んでいます。

フェンス沿いに進んでいくと、A児は長い蔓を発見し、すぐに引っ張り始めました。力を入れて引っ張っているA児の姿に興味をもったのか、東こども園の4歳の友達や、5歳の友達もA児の後ろに付いて、一緒に引っ張り始めますがなかなか抜けません。

他の場所から東こども園の友達もやって来て、「Aちゃん、みんなも頑張れー。」と、声を掛けました。そうしていると、応援する声聞きつけた友達が次々に集まり一緒に引っ張り始めます。

園庭では『玉入れ』が行われています。『玉入れ』をしている友達を応援する「頑張れー！」の音が、聞こえてきました。A児は、『玉入れ』をしている友達の方を一瞬見ると、ニコツとして今まで以上に力を入れて引っ張っています。仲間から、自然と「よしよしよしよしよしよし」と、掛け声が出てきて、引っ張るタイミングが揃ってきます。しばらく綱引きのように掛け声を出しながら楽しみましたが、蔓がブチッと切れてしまいました。

一緒に引っ張っていた子どもたちは、「切れちゃったねー。」と、口々に言いながら自分の遊びに戻っていききました。A児も、近くにいた友達と一緒に滑り台の方へ走っていききました。

A児が、友達と滑り台で遊んでいると、「次は、じゃんけん列車をしますー」と、東こども園の友達がマイクでアナウンスをしました。3園合同の『運動会』で、A児が楽しんだ競技です。保育者が「Aちゃんの好きな『じゃんけん列車』が始まるよ」と声をかけています。A児は、園庭に集まってきている友達を見ましたが滑り台をやめようとはしませんでした。

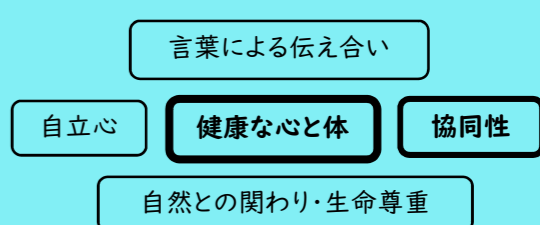
『じゃんけん列車』が終わると、園庭では次の演技『バルーン』の準備が始まり、曲も流れ出しました。やりたい子どもたちが次々に集まり、自分の持つ所を探して曲を聞きながら始まりを待っています。一方、A児は園庭で準備している友達の様子を見ることはなく、滑り台を滑り続けます。

保育者は『バルーン』が始まったよと、A児が滑り降りたタイミングで伝えました。それを聞いたA児は急いでみんなの所に駆けつけていき、比較的空いているところを見つけ、『バルーン』の遊びに参加しました。

最初は、手の上げ下げのタイミングが合わずに動きが小さかったように見えましたが、保育者が「上、下」と声をかけると、次第に手を大きく動かすようになりました。手を高く上げるところでは、曲に合わせて高く上げています。みんなで気持ちを合わせてしゃがむと、バルーンの大きなパンダが出てきました。その瞬間、A児も友達も、保育者もみんな笑顔になりました。

今回の『わくわく会』は、友達と一緒に活動する楽しさが味わえたようです。次回は、山香こども園で、4歳・5歳合同の交流会を行います。様々な体験を通して、友達と関わりを増やしていくと考えます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」



幼保連携型認定こども園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

事例に見られる「10の姿」の育ち 健康な心と体

A児は自ら太鼓橋という環境に関わり、自分の力を試していると思われる。また、A児を応援する声を受け、蔓を抜こうと体を十分に働かせて引っ張っている。蔓は切れたが、力を出し合えたことに充実感をもてたのではないかと考える。

A児は、『バルーン』が始まったことを伝える保育者の言葉掛けをきかっけに、みんなの所に走っていった。遊具で十分に遊んだ満足感や、「みんなと『バルーン』をしたい」と思いなど、A児なりにやりたいことを考え、選択したと思われる。

子どもは、安心して環境に関わり、自己を十分に発揮して遊びを楽しむ中で、体を動かす気持ちよさを感じたり、時間の流れを意識したりしていく。こうした体験の積み重ねを通して、遊びや生活に、見通しをもつて自立的に行動する姿になっていくと考える。

事例に見られる「10の姿」の育ち 協同性

A児は、蔓を引っ張ることに興味をもった友達と共通の思いが生まれ、力を合わせる体験をした。A児は、なかなか抜けない蔓を協力して引っ張る遊びを通して、友達との関わりができていったのではないかと考える。

『バルーン』では、保育者の合図で次第にみんなと動きが揃ってきた。友達と動きを合わせる心地よさを感じながら、友達と一緒にパンダを出すという目的が実現できる喜びを味わったと思われる。

5歳児後半には、同じ目的の実現に向けて考え合いながら、工夫したり、協力したり、充実感をもって子ども同士でやり遂げる姿になっていくのではないかと考える。

健康な心と体

保育者の援助・環境構成のポイント

- 《3園で活動が展開できるよう、共通の体験・活動を指導計画に位置付け、十分な打合せをする》
時間の流れ、園内の遊具や道具、保育者や友達など、主体的な活動を促す環境
遊びが満足できるような時間や空間の確保
自分たちで遊びをつくり出している実感がもてるよう、事前や事後に子どもたちとの話し合いの場の設定
子どもの発達に即して、必要な体験が得られるような保育者の関わり
あらかじめ決めていたことを想起させ、何をしたらもっと楽しめるかを選択できるような言葉掛け